

Title	東京歯科大学広報 第310号 2023年09月30日発行
Journal	東京歯科大学広報(310)
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/6273">http://hdl.handle.net/10130/6273</a>
Right	
Description	

# 東京歯科大学広報



第55回  
全日本歯科学学生総合体育大会  
総合第3位

## 第55回 全日本歯科学生総合体育大会開催

# 東京歯科大学 総合第3位に輝く！

第55回全日本歯科学生総合体育大会夏期部門(以下デンタル)が、2023年7月31日(月)～8月13日(日)の日程で、4年ぶりに全国各地で開催された(総合主管校：昭和大学歯学部)。本学からは、冬期部門とあわせて18部門に参加し、見事「総合第3位」の成績をおさめた。

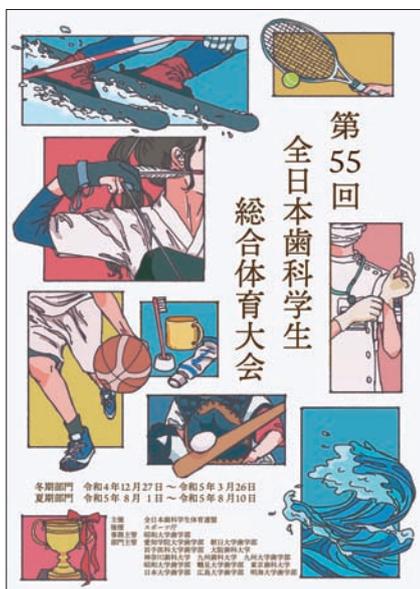
9月7日(木)には、歯学体評議委員の石坂大昂さん(第4学年・硬式庭球部)と澤部圭佑さん(第3学年・バドミントン部)が、一戸達也学長に大会が無事に終了したこと、ならびに成績の報告を行った。

### ▼ 総合成績

順位	大学名	得点
1位	九州歯科大学	169.50
2位	日本大学歯学部	142.00
3位	東京歯科大学	135.50
4位	日本歯科大学生命歯学部	88.57
5位	愛知学院大学歯学部	85.00

### ▼ 入賞部門

順位	部門
優勝	スキー部門
準優勝	硬式庭球部門・剣道部門・水泳部門
第3位	サッカー部門・硬式野球部門 卓球部門
第4位	バドミントン部門
第5位	バレーボール部門・陸上競技部門 軟式庭球部門・ボウリング部門
第6位	ゴルフ部門
第8位	バスケットボール部門



▲第55回デンタルのポスター



▲男子団体・女子団体・総合団体に総合優勝したスキー部

【スキー部】スキー部史上初の3冠を勝ち取ることができました！来年は北海道で開催です。トロフィーを獲得できるように頑張ります！

(尾高寛樹・第3学年)

参加した各部主将に聞きました！

# デンタルに参加して

4年ぶりに開催されたデンタル。多くの選手が「初出場」となった本大会での好成績は、各  
部員たちの“がんばり”はもとより、「全国の開催地に出向いてくださった多くのOB・OG  
や、日々サポートしてくださった教員、職員の大声援に支えられた」と多くの選手たちが感想  
を寄せています。ここでは、各部の主将から寄せられた“印象に残った思い出”をご紹介します。

**【硬式庭球部】** 試合で同じ部員に加えて、OBの方々や先  
生方、同期が応援してくれたのがめちゃくちゃ嬉しかったで  
すし、力になりました！  
(村頭 浄・第4学年)

**【剣道部】** 久しぶりのデンタルを優勝という最高に良い結  
果で終わることができました！優勝杯でコーラ飲むのが楽し  
みです！  
(木住野剛月・第4学年)



**【水泳部】** OB・OGへの連絡なども含め、楽しかったの  
一言です！部員が部員を応援している姿に涙しました。デン  
タル最高！  
(山村 鴻・第4学年)

**【サッカー部】** 初めてのデンタルすごく楽しかったです！ご  
指導・応援してくださったすべての方に感謝いたします。来  
年は優勝します!!  
(紋谷真輝・第4学年)



## 第55回全日本歯科学生総合体育大会開催

**【硬式野球部】** チーム一丸となって目標に向かい、全力で取り組むという素晴らしい経験ができました！各大学と交流ができたことも楽しかったです！（原田優佑・第4学年）



**【バドミントン部】** 窓を締め切ってコツコツと練習する種目ですが、酷暑のなか皆で耐え、よい結果を得ることができました！お疲れ様でした！（多田心・第4学年）



**【陸上競技部】** 無事に大会を終えたことにホッとします。OB・OGの先生方が応援に来てくださったことに心から感謝申し上げます。（吉田颯樹・第4学年）



**【卓球部】** 他大学の情報が圧倒的に不足してるなかで目標を持って練習に取り組むことが難しかったですが、今は充足感に包まれています！（柿原真優菜・第4学年）



**【バレーボール部】** 引退前に経験でき嬉しかったです。主将として時に厳しい言葉で雰囲気締めるところが大変でした。（男子バレーボール部：小野快・第4学年）  
歯学体経験者がいない中でのスタートで不安でしたが、今までの練習が報われてとても嬉しい気持ちになりました。（女子バレーボール部：友田菜々香・第4学年）



**【軟式庭球部】** 初めての経験の連続でしたが、全員で楽しく終えられたことが1番の思い出です。来年は全員で結果を残せたらうれしいです。（新谷隼人・第2学年）



**【ボウリング部】** 他大学との初めての交流はとてもよい経験となりました。来年こそは必ず優勝します！  
(井上宙翔・第2学年)



**【ゴルフ部】** 優勝こそ逃しましたが、初めてのデンタルは一生の記憶に残る良いものでした。ぜひ後輩には優勝を目指して欲しいです。  
(橋爪 楓・第4学年)



**【バスケットボール部】** コロナ明けの初のデンタル、喜びあり、涙あり、熱い夏のイベントでした！  
(男子バスケットボール部：鈴木智頭・第4学年)  
チームスポーツの良さを改めて実感しました！他校とも今後につながる関係ができてとても嬉しく思いました。  
(女子バスケットボール部：大山璃子・第4学年)



**【フットサル部】** 初めてのデンタルにも関わらず主管となり、準備が大変でしたが、楽しかったです！  
(方 孝仁・第3学年)



**【弓道部】** 全員が初めての遠征・大会で慣れない部分も多かったですが、応援の矢声がどの大学よりも大きく、チーム一丸となって戦えました！  
(室町理紗・第4学年)



**【柔道部】** 練習してきた仲間と互いの試合を応援したり、他大学の学生と「学業も柔道も頑張ろう」と語り合えたことはいい経験でした！  
(高橋鵬成・第4学年)



# 学校法人東京歯科大学役員選任 井出吉信理事長の再任が決定

学校法人東京歯科大学は、2023年5月31日（水）をもって法人役員（寄附行為第8条第1項に規定する理事を除く）が任期満了を迎えるにあたり、5月29日（月）開催の第261回評議員会および6月1日（木）開催の寄附行為第8条第3項に規定する理事選任に関する会合において、新理事が選任され、新理事による互選により、井出吉信理事長の再任が決まった。また、同日開催の第747回理事会において常務理事および監事が選任された。

「理事長の職務の代理及び代行」には、井出理事長より一戸達也常務理事が指名された。

## ▼2023年6月1日からの法人役員新体制

井出 吉信	理事長	総括
一戸 達也	常務理事	学務・人事（水道橋・千葉）
片倉 朗	常務理事	庶務・病院（歯科）
西田 次郎	常務理事	病院（医科）
加藤 靖明	常務理事	財務・建設
澁谷 國男*	常務理事	校友
松井 淳一	常務理事	人事（市川）
金森 越哉*	理事	
石井 拓男	常勤監事	
橋本 正次	常勤監事	
榊原 一夫	監事	
五木田 彬	法律顧問	
片倉 朗	法人主事	

※外部理事

## 退任・退職のご挨拶



名誉教授

橋本 正次

2022年6月1日付で法人主事を拝命し、2023年5月31日付で退任するとともに、同日学校法人東京歯科大学を退職いたしました。

思い返せば、1977年10月に鈴木和男教授が主宰されていた法歯学講座に副手として入局、翌年4月から助手、1982年4月より講師、1992年には教養系人類学兼任講師、2003年4月に教養系人類学研究室助教授、2005年11月同教授、2014年4月からは法歯学講座教授（法人類学研究室兼任）、そして同年6月から法歯学・法人類学講座教授となり、この間、法歯学や法人類学の主要な活動分野における国内外の様々な事件や事故、災害の犠牲者の歯科的証拠による身元確認や、骨や顔貌の法人類学的な鑑定を行ってきました。そして、このような活動を通して、日本全国の警察や法曹関係者、外務省、厚生労働省などとの協力体制ができ、法歯学の重要性を社会に認識していただけるようになったことは、今後の法歯学の発展に貢献できたものと思っています。

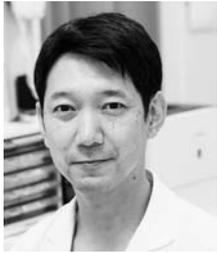
2016年6月から2022年5月まで副学長を拝命、主として教学を担当し、学生教育や生活面の手当てはもちろん、受験生の確保や適正な選抜試験の実施、そして卒業判定や国家試

験受験者の教育と高い合格率の維持などに尽力しました。この重責を大過なく終えることができたのは、講座員や教職員全員のご支援、ご協力のお陰であると、心より深く感謝申し上げます。

そして、その後は法人主事という、それまでにあまり経験してこなかった学校法人の事務全般をみるという役割をいただきました。井出吉信理事長はじめ石井拓男前法人主事からのご指導、そして法人事務局の皆様のご協力で何とか業務内容を理解するなかで、私立学校法の大幅な改正が国会を通過し、これからが大変という時期に退任することは申し訳ない気持ちでいっぱいです。ただ、2023年6月1日からは、学校法人東京歯科大学の常勤監事として、この職を全うできるように努力してまいります。

いずれにしましても、東京歯科大学に45年6か月の長きにわたりお世話になりました。そして、この間、無事に役割を終えることができましたことは、その時々大学の教員ならびに職員皆様のご支援、ご協力のおかげであり、重ねて心より深く感謝するとともに、今後とも何卒よろしく願い申し上げます。

## 教授就任のご挨拶

市川総合病院眼科  
山口 剛史

この度、2023年5月1日付けにて教授を拝命いたしました。皆様方に本誌面をお借りして、深謝申し上げます。伝統ある東京歯科大学において、このような重職を担当させていただき、大変光栄に存じますとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いです。

私は2002年に慶應義塾大学医学部を卒業し、慶應義塾大学眼科学教室に入局いたしました。その後、那須赤十字病院や国立病院機構霞ヶ浦医療センターに出張し地域医療を経験し、2009年から東京歯科大学市川総合病院眼科に赴任、2011年から2013年までハーバード大学附属マサチューセッツ眼耳鼻科病院への留学を経て、東京歯科大学市川総合病院眼科に帰室しました。研究では、神経障害と免疫寛容の研究や、虹彩萎縮に伴う病的な前房環境が角膜移植の長期予後に与える影響を研究し、「前房関連角膜内皮症」の疾患概念を確立しました。また「角膜混濁眼」の光学解析アルゴリズムの基盤を臨床応用し、主要な角膜失明疾患について英文論文化し、「眼光学の失明疾患への応用」を実現しました。臨床では、島崎 潤教授のご指導のもと、様々な難治性角膜疾患の治療や手術を手掛け全国から患者をご紹介いただいています。

これまでデスメ膜角膜内皮移植などの新しい角膜治療の国内導入に貢献し、よりよい角膜移植が全国に普及するよう努めてまいりました。今後は、地域の眼科医療に貢献しながら、次世代の角膜医療を担う後進を育成し、日本の角膜医療・アイバンクの発展に精進したいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく申し上げます。

市川総合病院薬物療法科  
和田 徳昭

この度、2023年6月1日付けで市川総合病院薬物療法科教授を拝命いたしました。就任にあたり、井出吉信理事長、一戸達也学長、松井淳一副学長をはじめご推薦、ご選考いただきました諸先生方に深謝申し上げます。

私は1990年新潟大学医学部を卒業し、慶應義塾大学病院、関連病院で研修し、1993年慶應義塾大学医学部外科に帰室、一般消化器外科で乳腺外科医としての活動を開始しました。1996年足利赤十字病院に赴任し乳がん診療の研鑽を積み、2002年国立がんセンター東病院乳腺科に勤務しました。同病院ではエビデンスに基づいたがん診療の実践、診療・研究・教育を行ってまいりました。2015年当院に赴任し、外科学講座の准教授として乳がん診療を行ってまいりましたが、同時に外来薬物療法室長として、レジメンだけでなく当院のがん薬物療法に関する管理を行ってまいりました。地域がん診療拠点病院として、増加するがん患者、複雑化するがん薬物療法にしっかり対応して行く必要性から、2023年5月に薬物療法科が新設され、部長に就任しました。現在外科と兼任しております。

薬物療法科は病院全体としてがん治療を成功させるために、安全かつ確実ながん薬物治療の実践を担う中心となります。支持療法の一環として歯科と連携した口腔衛生管理を実施し、診療科・職種横断的ながん医療を統括してまいります。がん治療において、当院だけでなく地域医療の発展に貢献して行きたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

## 2023年度東京歯科大学公開講座、千代田区民公開講座開催

2023年5月20日（土）午後3時より、水道橋校舎本館12A講義室において、2023年度東京歯科大学公開講座・千代田区民公開講座が開催された。昨年と同様に、東京歯科大学白菊会の総会との同日開催となり、感染対策に留意した上で、白菊会会員の方々と一般の千代田区民の皆さんの、多数の参加をいただいた。

市川総合病院副院長、臨床薬学科の門田佳子教授により行われた「薬の四方山（よもやま）話」と題した講演は、専

門的な内容にも関わらず、参加者から「大変わかりやすかった」、「大変勉強になった」など、身近な問題として多くの声をいただいた。

本公開講座は「千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定」（令和5年1月20日付けで締結）に基づき千代田区民公開講座として開催されており、当日は千代田区の樋口高顕区長が来場され、講演会の冒頭にご挨拶をいただいた。



▲演者の門田教授



▲講演会場の様子

▶挨拶する樋口区長



## 第206回歯科医学教育セミナー開催

2023年5月22日（月）午後5時30分より、オンラインにて、第206回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は「第116回歯科医師国家試験結果の分析」と題し、一戸達也学長により、今回の試験からの変更内容や各試験分野の得点

分布、全国と本学正答率の比較などに関する内容の説明が行われた。

多くの参加者が集まり、試験結果の分析を行うことで、今後の学生教育へとつながる大変有意義なセミナーとなった。

## 2023年度第2回水道橋病院教職員研修会開催

2023年5月23日（火）午後6時より、オンラインにて、2023年度第2回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、はじめに「放射線診療に関する研修：適切な画像検査、画像診断を行うために」と題して、放射線科の音成実佳医局長により、予約方法やオーダー方法、撮影時の注意点などについて説明があり、続いて検査の依頼方法や注意点について説明があった。また、検査目的やコメント欄について詳細に入力してほしい旨の説明がなされた。

次に「次亜塩素酸ナトリウム溶液の取り扱いについて」と題して、歯内療法学講座の佐古 亮講師により、次亜塩素酸ナトリウムについて説明があり、根管洗浄シリンジの取り扱い、ラバーダム防湿ができない時とできる時の漏洩対策、ラ

バーダム防湿下での漏洩に気付かなかった一例をあげて説明があった。また、漏洩してしまった時の対策を説明され、診療中は患者の様子に注意していただくようお願いし、講演を終えられた。

最後に「補綴診断料について」と題して、診療録指導委員会委員の四ツ谷 護講師により、補綴診療の流れ、ブリッジ、有床義歯について説明がなされ、カルテへの要点の記載方法を説明があった。

今回の研修会では、放射線の安全利用、医療機器、安全管理に関することについて、教職員が正確に認識することで、院内業務の円滑化につながる大変有意義な研修会となった。

## 第315回東京歯科大学学会・例会開催

2023年6月3日（土）午前9時より、水道橋校舎新館において、第315回東京歯科大学学会・例会が開催された。

午前は口演7題が第1および第2講義室にて、示説21題が第3実習講義室を会場として各々発表された。午後は第2講義室において、衛生学講座の佐藤涼一講師と口腔病態外科

学講座の星野照秀助教による学長奨励研究賞受賞講演が行われ、引き続き同会場において4教授による特別講演（下囲み参照）が行われた。また、9商社の参加による商品展示が第2講義室前ラウンジで行われた。

例会は4年ぶりの対面開催となり、盛会のうちに終了した。

### 1. 地域医療における心不全診療

大木貴博教授（市川総合病院循環器内科）

### 2. 病院薬剤師の役割の深化

門田佳子教授（市川総合病院臨床薬学科）

### 3. すべてはこどもが教えてくれる

～小児診療における宝探し～

福島裕之教授（市川総合病院小児科）

### 4. 感覚情報－組織形成機能連関における象牙芽細胞機能制御系の解明

澁川義幸教授（生理学講座）

▲特別講演の演題と演者



▲特別講演演者の澁川教授

## ■ SD（スタッフ・ディベロップメント）セミナー開催

2023年6月7日（水）午後5時30分より、水道橋校舎本館第一講義室において、SDセミナーが開催された。今回は末石倫大弁護士を講師にお迎えし、「医療機関における個人情報の取り扱いについて」と題したご講演をいただいた。

個人情報保護法が成立してから20年が経過し、国民の個人情報に対する意識も定着している中、医療機関では通常よりも配慮の必要性の高い医療情報という個人情報を取り扱っ

ている。本セミナーでは、厚生労働省および個人情報保護委員会のガイダンスにしたがって、基礎的な事項から、日常業務のなかで問題となりうる事項について具体的な例をあげながら、大変わかりやすく解説いただいた。

講演終了後の質疑応答も活発に行われ、参加した教職員は個人情報の適切な取り扱いについて学び、基本的知識を理解することができた有意義なセミナーであった。



▲講演される末石弁護士



▲講演の様子

## ■ 2023年度実験動物供養祭実施

2023年6月16日（金）午前11時30分より、水道橋校舎新館血協記念ホールにおいて、2023年度実験動物供養祭が執り行われた。

供養祭は、一戸達也学長、大学幹部、大学関係者および歯学部第3学年学生が参列し、真珠院ご住職の読経に始まり、

一戸学長が祭文を奉読された。その後、歯科医学教育や研究にその生命を捧げた動物諸霊に対し深く哀悼と感謝の意を込め、教職員、歯学部第3学年学生代表が順次献花を行い、滞りなく終了した。



▲祭文を奉読する一戸学長



▲実験動物供養祭会場風景

## 第207回歯科医学教育セミナー開催

2023年6月27日（火）午後5時30分より、オンラインにて、第207回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は「東京歯科大学の新たな研究プロジェクトの紹介」と題し、松坂賢一教授の司会進行で行われた。

はじめに、溝口利英教授より研究プロジェクトの概要説明があった。続いて、大野建州講師より「生体防御ラボの研究計画」、澁川義幸教授より「常態一病態機能解析ラボの研究

計画」、菅原圭亮准教授より「生体医工学ラボの研究計画」、溝口教授より「組織再生ラボの研究計画」の順で研究計画の紹介が行われた。

ウェルビーイングプロジェクトとして新たな研究が行われるとして、大勢の参加者が集まり、大変有意義なセミナーとなった。

## 令和5年度歯科大学学長・歯学部長会議 および令和6年度全国歯科大学・歯学部附属病院長会議開催

2023年7月7日（金）午後2時30分より、オンラインにて、令和5年度歯科大学学長・歯学部長会議が本学を主管校として開催された。当日は、国公私立29大学の歯科大学学長・歯学部長以外にも、文部科学省高等教育局医学教育課および厚生労働省医政局歯科保健課、日本私立歯科大学協会からの出席もいただいた。

主管大学挨拶として、一戸達也学長の開会の辞に始まり、文部科学省高等教育局医学教育課の依 幸嗣課長から「歯学教

育の現状と課題」、厚生労働省医政局歯科保健課の小椋正之課長から「歯科保健医療の動向について」と題してご講演いただいた後、引き続き、報告事項および審議事項が行われ、滞りなく会議は終了した。

また、同日午後1時より、オンラインにて、令和5年度全国歯科大学・歯学部附属病院長会議が本学を主管校として開催され、山下秀一郎水道橋病院病院長の議事進行のもと、滞りなく会議は終了した。

## 2023年度歴代学長・役職者の墓参

例年行われている歴代学長・役職者の墓参は、以下の日程で執り行われた。

【7月27日（木）】

- ・奥村鶴吉先生 東京都東村山市「小平霊園」  
（参列者：一戸学長、大学庶務課庶務係）
- ・杉山不二先生 東京都府中市「多磨霊園」  
（参列者：一戸学長、大学庶務課庶務係）
- ・松宮誠一先生 東京都府中市「多磨霊園」  
（参列者：一戸学長、大学庶務課庶務係）
- ・関根 弘先生 神奈川県横浜市「東戸塚霊園」  
（参列者：一戸学長、大学庶務課庶務係）



▲関根先生の墓参を行う一戸学長

## ■ 真珠院へのお盆参りの実施

お盆の入りの前日となる 2021年7月12日（水）午前 11 時、井出吉信理事長および一戸達也学長が真珠院（東京都文京区）を訪れ、お盆参りを行った。

真珠院は本学の解剖諸霊位法要会ならびに実験動物供養祭

において、御導師様にお越しいただき、法要を執り行っている菩提寺である。当日は解剖学講座の宮本依利大学院生と平澤八重研究補助員も同行し、お墓の清掃をした後、お花を供え、お線香を手向けてお参りした。



▲井出理事長によるお盆参り



▲一戸学長によるお盆参り

## ■ 第1回入試ガイダンス・オープンキャンパス開催

2023年7月15日（土）午後2時より、水道橋校舎新館において、東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象とした入試ガイダンス・オープンキャンパスが開催された。

受験生や保護者の方々に対し、本学の教育理念やカリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒後進路状況、2024年度入学試験の概要などについて説明を行い、各入試科目の一般入学選考で出題される同等レベルの例題を提示したうえで問題の解説を行った。

また、口腔健康科学講座の大久保真衣准教授による『「食べる」はどう育つの？～食形態と口腔機能の発達～』と題した模擬授業が行われた。さらに、今年度より Elective Study Program に参加した学生からの報告が行われ、充実した海外研修での貴重な体験を参加者に伝えた。

その後、希望者を対象として水道橋病院、さいかち坂校舎、水道橋校舎新館の見学や、教務部・学生部の教職員との個別進学相談を行い、充実した第1回開催となった。



▲学生による Elective Study Program の報告の様子

## 2023年度第3回水道橋病院教職員研修会開催

2023年7月25日（火）午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、2023年度第3回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「インフォームドコンセントを取る際のスムーズな患者との接し方—患者との信頼関係作りと医療安全のために—」と題して、株式会社国際パフォーマンス研究所代表取締役社長で、社団法人パフォーマンス教育協会理事長および佐藤綾子のパフォーマンス学講座主宰、博士（パフォーマンス心理学）、ハリウッド大学院大学教授である佐藤綾子先生による講演が行われた。



▲講演される佐藤先生

講演は、はじめにメディカルパフォーマンスの8つの効果の説明がされ、ご自身の体験談を交えてインフォームドコンセント成功のための3ピリオド7項目のパフォーマンスステップについて説明された。その中でも「チェックバックの大切さ」を実際に行い、医療安全のために患者とのチェックバックがいかに大切であることを説明された。

今回の研修会は、患者との接し方や話し方について多く学ぶことができ、水道橋病院のすべての教職員にとって、大変有意義な内容となった。



▲会場の様子

## 第1回研修歯科医教育セミナー開催

2023年7月26日（水）午後6時より、千葉歯科医療センター講義室において、千葉歯科医療センターの研修歯科医、指導歯科医を対象とした研修歯科医教育セミナーが開催された。第1回目の今回は、日本大学歯学部保存修復学講座教授の宮崎真至先生を講師にお招きし、「コンポジットレジンを用いた審美的修復処置のScience & Technique」と題した講演と実技指導を行っていただいた。

講演では、「保存修復の原則は、形態の回復時に理想的な形を付与することである。その上でレジン充填のポイントは、1）残存歯質と色調を同じにすること、2）エナメル質様の光沢感を付与することであり、前歯のレジン充填では、

1）隅角と隣接面の再現、2）左右の対称性の模倣がポイントであること、そして白歯部のレジン充填では、1）主溝と副溝を再現すること、2）複雑窩洞においては隣接面を最初に築盛し、単純窩洞にすることがポイントである。」などのお話をいただいた。

講義室での講演後、場所をチェアサイドに移し、レジン充填の実技をカメラ室のモニターに映しながらの双方向の研修型式で行っていただいた。集まった研修歯科医や臨床研修主任指導者は宮崎教授の実技に見入っていた。最後のコーナーでは研修歯科医から活発な質問が寄せられ、大変有意義なセミナーとなった。



▲講義の様子



▲実技指導を行う宮崎先生

## 2023年度緩和ケア研修会開催

市川総合病院は2008年2月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けている。地域がん診療連携拠点病院には、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会を毎年開催することが義務付けられている。今年度は、2023年7月29日（土）午前8時45分より、市川総合病院講堂において開催した。

研修会は事前のe-learning受講と1日間の集合研修で構成され、院内から医師18名、歯科医師8名、看護師2名の合計28名の参加者に対して、6名のファシリテーターを迎え

て行われた。研修会の内容は、講義とロールプレイ、ワークショップで構成されており、グループ討議やロールプレイが熱心に行われた。

緩和医療は患者やその家族のつらさに焦点が当てられているが、がん診療を行っている医療者のケアも重要な要素である。今回のような研修会は、日常のがん診療、特に疼痛緩和などで困っている医師に対しては極めて有効であることから、今後も地域がん診療連携拠点病院としての役割を担って行きたい。



▲講義の様子



▲グループ演習の様子

## 第2回入試ガイダンス・オープンキャンパス開催

2023年8月5日（土）午後2時より、水道橋校舎新館において、東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象とした入試ガイダンス・オープンキャンパスが開催された。

受験生や保護者の方々に対し、本学の教育理念やカリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒後進路状況、2024年度入学試験の概要などについて説明を行い、各入試科目の推薦入学選考で出題される同等レベルの例題を提示したうえで問題の解説を行った。

また、老年歯科補綴学講座の上田貴之教授による「高齢者のお口の機能を守る」と題した模擬授業が行われた。さらに、Elective Study Programに参加した学生からの報告も行われ、参加者は熱心に聞き入っていた。その後、希望者を対象として水道橋病院、さいかち坂校舎、水道橋校舎新館の見学や、教務部・学生部の教職員との個別進学相談を行い、充実した第2回開催となった。



▲模擬授業をする上田教授

## ウェルビーイングプロジェクト共催 Asian Rising Stars Symposium 2023 の開催報告

2023年7月29日（土）午後1時より、オンラインにて、Asian Rising Stars Symposium (ARSS) 2023が開催された。ARSSは、アジア諸国の新進気鋭の若手研究者を招聘し、シンポジウムを開催することで、国際的に活躍できる若手・次世代研究者／歯科医師を育成するための取り組みである。したがって本シンポジウムでは、発表者だけではなく座長も、おもに若手から中堅の本学教育職員が担当した。

ARSSはこれまで、2019年度と2021年度に「顎骨疾患プロジェクト」による共催で2回開催されているが、今回は2023年度から本学で推進している「ウェルビーイングプロジェクト」との共催で開催された。また、2019年度は海外から演者を招いて対面形式で開催されたが、2021年度以降はCOVID-19の流行によりオンライン開催に移行している。

シンポジウムの開催前には、発表者と座長による自己紹介が和やかなムードで行われた。そして一戸達也学長による開

会の辞の後、研究成果の発表をしていただいた。研究発表の内容は下囲みのおりである。

またARSSでは、その分野のエキスパートによるKeynote Lectureを設けており、今回は大阪大学大学院歯学研究科口腔生理学教室教授の加藤隆史先生に、睡眠時ブラキシズムの発生機序に関する最新の知見についてご講演いただいた。

以上のように、専門性の異なる多岐にわたる発表内容であるにも関わらず、すべての発表において活発な質疑応答が行われた。そしてシンポジウムは、ウェルビーイングプロジェクトアドバイザーの山口 朗客員教授による閉会の辞で締めくくられた。

現在、国際共著論文の数が大学の研究力の指標となっているが、本シンポジウムの開催により、次世代研究者の国際化がさらに進み、国際共同研究の活性化に繋がることも期待できる。

### 【海外演者と発表内容】

- Dr. Sheng-Wei Feng (台湾：台北医学大学)：歯髄幹細胞由来のエクソソームの組織修復への応用について
- Dr. Ren Xu (中国：廈門大学)：骨芽細胞が担う脂肪代謝について
- Dr. Li Xie (中国：四川大学)：歯周組織修復のために機能する生体材料について
- Dr. Ki-Woo Kim (韓国：延世大学校)：ミトコンドリア由来のエネルギー代謝分子について

### 【学内演者と発表内容】

- 今村健太郎先生（歯周病学講座）：タバコ煙の歯周疾患への影響について
- 佐藤涼一先生（衛生学講座）：耐酸性向上効果を目指した新規歯面塗布法の開発について

### ▲演者および演題

## 第487回大学院セミナー開催

2023年5月8日（月）午後5時30分より、オンラインにて、第487回大学院セミナーが「ウェルビーイングプロジェクト」と共催で開催された。演者は久保歯科医院（北海道稚内市）院長の久保四郎先生で、「開業でも得られる長期観察によるNEUES（新知見）」と題して講演いただいた。久保先生は、1974年に本学を卒業後、東京医科歯科大学、ビルツブルグ大学、札幌医科大学で口腔外科を11年間専攻し、35年前に稚内市で開業された。

今回のセミナーでは、まず久保先生が開業してから実施した歯の再植や顎関節突起骨折修復の長期観察症例を紹介し、これらの施術における適応症の考察も述べられた。中でも顎関節突起骨折の治療に関しては、手術をしなくても保存療法で治癒可能な症例があることを示した。この点に関しては、手術療法を多く行っているマールブルク大学顎顔面外科のNeff教授とメールで多くのディスカッションを行った後に、2年前にNeff教授の研究室に出向き、セミナーを行い、お互いの意見を交わして有益な機会を得たことも話された。また、

久保先生は本セミナーの前日にマールブルク大学歯学部学生へのお出張講義より帰国されたことから、同大学歯学部における顎顔面外科の実習の様子も紹介された。さらに、久保先生は開業してからドイツ/オーストリアが実施したネパールでのボランティア歯科診療に4回参加されたことから、ネパールの歯科医療の実情も紹介して下さった（歯科学報114:211-215,2014にて報告）。

久保先生は稚内市で開業しているが、文献はインターネットで検索でき、論文を読んで疑問があれば著者にメールをしてディスカッションできることから、「自分でしっかりと長期観察することに困ったことはない」とも話されていた。

最後に「大学院生の皆様も一例一例を大切に、記録に残し、それを集積して、自分なりに分析することが臨床を楽しむ。そのためには不断の努力が必要で、皆さんも国際的に活躍してください」とのTake home messageがあった。

「リサーチマインドを堅持する歯科医師を育成する大学」である本学大学院生に大きな刺激となるセミナーであった。

## 2023年度大学院新入生学外総合セミナー開催

2023年6月1日（木）から3日（土）の3日間、御殿場高原ホテル「時の栖」（静岡県）において、2023年度大学院新入生学外総合セミナーが行われ、大学院新入生28名と齋藤 淳大学院研究科長、福田謙一大学院学生部長、澁川義幸大学院教務部長、口腔科学研究センターの溝口利英教授、北海道医療大学教授の照光真先生が参加した。

初日は照光先生と溝口教授による講演があり、2日目の午前にはグループに分かれて大学院新入生による英文論文に関する発表が行われた。午後は3日目のグループ発表に向けての討議が行われ、3日目の午前中にグループごとに発表が行われた。その後の閉校式では、英文発表の優秀者と、グループ発表における最優秀グループが表彰された。



◀集合写真

## 第488回大学院セミナー開催

2023年6月22日(木)午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第488回大学院セミナーが、ウェルビーイングプロジェクトとの共催で開催された。今回は、ラヴアル大学歯学部(カナダ)歯学部長の Petros Papagerakis 先生をお招きして、「歯の硬組織形成における時計遺伝子の乱れと病的なSTIM1シグナリングの影響(Effects of circadian clock disruption and pathological STIM1 signaling in dental mineralized tissues formation)」と題した講演をいただいた。

体内時計は、時計遺伝子と呼ばれる転写因子の発現差異を通じて、ほぼすべての哺乳動物の生理学的過程の日周期リズムを制御している。時計遺伝子の発見には、2017年にノーベル生理学・医学賞(Drs. Jeffrey C. Hall, Michael Rosbash, and Michael W. Young)が与えられている。ご講演いただいたPapagerakis教授は、特に硬組織形成における時計遺伝子研究の第一人者で、3つの時計遺伝子(Per2・Cry1・Cry2)ノックアウト(KO)マウスを用いた研究から、象牙芽細胞発生過程・象牙質形成調節における主要な体内時計遺伝子の役割をお話いただいた。加えて、免疫系の細胞のみならず、エナメル芽細胞や象牙芽細胞にも発現が見られるストア依存性カルシウムイオン流入(SOCE)を担う高カルシウムイオン選択性チャンネル「Orai」、ならびにその活性化に



▲大学院セミナー後の様子

関与する小胞体カルシウムセンサータンパク質「STIM1」が、体内時計遺伝子によるシグナル伝達と相互作用することで、歯の硬組織形成・発生過程に重要を演じていることを話された。このような歯を含めた口腔機能に関連する時間生物学の解明から、時計遺伝子を標的とする新しい口腔歯科疾患予防と治療の方策を提供できる可能性について、最後に展望を述べられた。

セミナーには多くの大学院生・学内研究者が参加され、活発な討議もされた。大変有意義なセミナーとなった。

## 第489回大学院セミナー開催

2023年7月18日(火)午後6時より、オンラインにて、第489回大学院セミナーが、ウェルビーイングプロジェクト(若手サイエンスアカデミー企画)と共催で開催された。今回は国立成育医療研究センター・免疫アレルギー・感染研究部・アレルギー研究室室長の森田英明先生に、「アレルギーはなぜ増えた?～増え続けるアレルギーを克服するには～」と題してご講演をいただいた。

1970年代以降に患者数が急増しているアレルギー疾患は、遺伝的素因と環境要因が複雑に絡み合って発症すると考えられるため、この短期間に患者数が急激に増加した原因はおもに環境の変化にあると考えられる。これらを背景に、近年提唱されている、人間の体が外界と接する部分に存在する上皮細胞のバリア機構が何かしらの要因で障害されることが

アレルギー疾患発症の起因となる「上皮バリア仮説」について、ご解説いただいた。また、「上皮バリア仮説」に関連して上皮バリア機能障害を引き起こす環境要因として、家庭で使用される合成洗剤に含まれる界面活性剤などの因子が影響する可能性について、森田先生らの最新の研究成果をもとにご紹介いただいた。

本学においても、アレルギー疾患を有する歯科関連患者の治療や各種炎症疾患を標的とした研究が盛んに行われている。本セミナーは、多くの大学院生にとって、アレルギー疾患に関する基本的な知識から最新の考え方で学ぶ機会となったことに加え、今後の臨床および研究生活の双方に有益なものになると思われた。

## ■ 新行内 恵助教 第77回日本口腔科学会学術集会にて 学会賞優秀論文賞を受賞

2023年5月11日（木）から13日（土）に、岡山コンベンションセンター（岡山市）において開催された第77回日本口腔科学会学術集会にて、口腔顎顔面外科学講座の新行内 恵助教が、令和5年度日本口腔科学会学会賞優秀論文賞を受賞した。新行内助教は「骨吸収抑制薬治療歴のある骨粗鬆症患者における抜歯術後のARONJ発生因子の検討」を日本口腔科学会雑誌71巻第1号1～9頁に発表し、その内容を評価されての受賞となった。

わが国の骨吸収抑制薬関連顎骨壊死（antiresorptive agents-related osteonecrosis of the jaw：ARONJ）の原因疾患として骨粗鬆症が多く、また骨吸収抑制薬（antiresorptive agent：ARA）投与患者では、抜歯術はARONJ発生に関与するとされており、そのリスクは上昇するとされている。しかし、これまで骨粗鬆症患者に限定した抜歯術後のARONJ発生についての報告は少なく、実態は不明である。そこで本論文では、ARA既往歴のある骨粗鬆症患者での抜歯術後のARONJ発生と発生因子について明らかにすることを目的とした。

本論文では、ARONJ発生因子についての検討項目を、

「患者背景」年齢、性別、リスク因子（ポジションペーパーの全身性：がん、糖尿病、関節リウマチ、貧血および併用薬：副腎皮質ステロイド薬、抗がん薬）、「ARAの内容」投与経路、種類、投与期間、術前休薬、休薬期間、「抜歯術」部位、歯種、本数、抜歯の適応疾患、術前抗菌薬、術前エックス線写真所見、創の状態の15項目とした。そして千葉歯科医療センター口腔外科でARA治療歴のある骨粗鬆症患者のうち抜歯術を行った424例を対象として、ARONJの発生率と発生因子について検討した。

ARONJは、6例（1.4%）に発生し、ARONJ発生因子に対する多変量解析の結果では、性別（女性： $p = 0.006$ 、オッズ比0.028、95%信頼区間=0.002, 0.351）、リスク因子（全身性および併用薬： $p = 0.001$ 、オッズ比28.262、95%信頼区間=3.187, 250.607）および創の状態（解放創： $p = 0.021$ 、オッズ比0.068、95%信頼区間=0.007, 0.621）が有意な因子であった。抜歯術の際に完全閉創を心がけることで、ARONJ発生リスクを軽減させることが可能であることが示唆された。

今後も症例数を蓄積し、さらなる検討が必要である。



▲受賞した新行内助教（左）と片倉 朗教授



▲受賞した新行内助教（中央）と岩本昌士講師（左）、柴原孝彦客員教授

## 山下秀一郎教授、田坂彰規准教授 令和4年度日本補綴歯科学会・学会論文賞を受賞

パーシャルデンチャー補綴学講座の山下秀一郎教授と田坂彰規准教授が、令和4年度 公益社団法人日本補綴歯科学会・学会論文賞を受賞し、2023年5月19日（金）にパシフィコ横浜（横浜市）において開催された第132回学術大会にて表彰された。選出された論文は、「Retentive force of telescopic crowns combining fiber-reinforced composite and zirconia.」（J Prosthodont Res. 2022;66(2):265-271.）であった。

本論文は、田坂准教授がドイツのハイデルベルグ大学附属病院補綴科での留学中にPeter Rammelsberg教授の指導のもとで実施した研究である。これまでテレスコープクラウンは熟練した歯科技工士が歯科精密鑄造にて手作業で製作していたが、近年のデジタルデンティストリーの発展により、ヨーロッパを中心にCAD/CAM技術を用いてテレスコープクラウンを製作することが可能になった。また、様々な材料で加工できるようになったため、材料の選択肢が増えた。本論文では、テレスコープクラウンの内冠にジルコニアを、外冠にグラスファイバー強化型コンポジットレジン（FRC）を用いて維持力を検証した。ジルコニア製の内冠とFRC製の外冠の組み合わせのテレスコープクラウンは、適切な初期維持力を示した。また、外冠のミリングパラメータの



▲受賞した山下教授（左）と田坂准教授

調整とミリング後の研磨が、ミリング後の維持力の調整時間や外冠の長期的な予後に大きく影響することが示唆された。

本論文の内外冠の組み合わせのテレスコープクラウンはすでに臨床応用への試みが行われており（Digital technology for fabrication of removable dental prosthesis with double crowns combining fiber-reinforced composite and zirconia. J Prosthodont Res. 2023;67(3):487-492.）、これからの普及が期待されている。

## 伊東紘世大学院生 第132回日本補綴歯科学会学術大会にて 課題口演優秀賞を受賞

2023年5月19日（金）～21日（日）に、パシフィコ横浜（横浜市）において開催された第132回日本補綴歯科学会学術大会にて、パーシャルデンチャー補綴学講座の伊東紘世大学院生が課題口演優秀賞を受賞した。課題口演優秀賞受賞は、本学で初めての快挙である。受賞演題は「純チタンを局部床義歯フレームワークへ応用する際の最適なCAD/CAM技術の検討」であった。

純チタンは生体親和性に優れ、金属アレルギーを起こしにくい。しかし、歯科精密鑄造でフレームワークを製作することは困難であった。しかし、近年のCAD/CAM技術の発展により、その問題を克服できるようになってきた。本研究では純チタンを局部床義歯へ応用する際の最適なCAD/CAM技術の方法をマクロ的、ミクロ的な視点で検討を行った。結果として、純チタンディスクの切削加工が形状精度、内部欠陥、表面粗さおよび金属結晶構造の観点からもっとも優れることが明らかとなった。今後、臨床への応用が期待される。



▲受賞した伊東大学院生（右）と山下秀一郎教授

## 加藤雄人大学院生 第132回日本補綴歯科学会学術大会にて 課題口演賞を受賞

2023年5月19日（金）～21日（日）に、パシフィコ横浜（横浜市）において開催された第132回日本補綴歯科学会学術大会にて、パーシャルデンチャー補綴学講座の加藤雄人大学院生が課題口演賞を受賞した。受賞演題は「局部床義歯への応用を見据えた半焼結Co-Cr合金ディスクの精確さと機械的特性の検証」であった。

新たに開発された半焼結Co-Cr合金ディスクによって、補綴装置の製作方法に新たな選択肢が加わった。本研究では半

焼結Co-Cr合金ディスクを局部床義歯へ応用することを目的とし、支台装置を製作した際の精確さと引張試験による機械的特性について、従来の鑄造法と比較検討を行った。本研究では、半焼結Co-Cr合金ディスク製の支台装置の精確さは、レスト部で良好な値を示し、機械的特性はISO規格で定めるType 4金属の基準を満たすことが明らかとなった。今後の発展と臨床への応用が期待される。



▶受賞した加藤大学院生（右）と山下秀一郎教授

## 今村健太郎講師 第66回春季日本歯周病学会学術大会にて 最優秀臨床ポスター賞を受賞

2023年5月26日（金）、27日（土）に、レクザムホール（香川県）において開催された第66回春季日本歯周病学会学術大会にて、歯周病学講座の今村健太郎講師が最優秀臨床ポスター賞を受賞した。本賞は学術大会の臨床ポスターに発表された症例の中から、特に優れた発表を表彰するものである。今村講師は「歯肉のバイオタイプが薄い患者における複数歯に及ぶ歯肉退縮に対して根面被覆術を行った一症例」と

題する発表を行った。歯肉退縮を有する患者に対して、歯周形成手術（根面被覆術）の術前にバイオタイププローブを用い、歯肉のバイオタイプを客観的に判断することで適切な術式選択が可能となり、良好な成果が得られた点などが評価された。

今村講師には表彰状のほか、副賞（Quintessence Award）が贈られた。



▶受賞した今村講師（左）と齋藤 淳教授

## 溝口裕莉香臨床専門専修科生 日本顎変形症学会第33回学術大会にて優秀ポスター賞のコンペティションに選出され表彰

2023年6月8日(木)から9日(金)に、一橋大学一橋講堂(東京都)において開催された日本顎変形症学会第33回学術大会にて、歯科矯正学講座の溝口裕莉香臨床専門専修科生が優秀ポスター賞のコンペティションに選出され、森山啓司理事長より賞を授与された。受賞演題は「骨格性下顎前突症における外科的矯正治療と矯正単独治療の基準」であった。

本演題は、骨格性下顎前突症の治療方針として外科的矯正治療か矯正単独治療かを選択する基準を、セファロ分析値から算出した。歯科矯正用アンカースクリューの使用が可能になった年代での算出された基準と、それ以前のものでは選択基準に差が認められ、アンカースクリューの適応が関連していることが推察された。



▲表彰を受けた溝口臨床専門専修科生(右)と共同演者の立木千恵講師

## 小谷地 咲非常勤講師 日本歯科保存学会奨励賞を受賞

2023年6月22日(木)、23日(金)に、くにびきメッセ(島根県)において開催された日本歯科保存学会2023年度春季学術大会(第158回)にて、歯周病学講座の小谷地 咲非常勤講師が日本歯科保存学会奨励賞を受賞した。本賞は、歯科保存学の領域において優れた業績をあげた日本歯科保存学会の会員を表彰するとともに、若手研究者の育成を目的に、雑誌掲載論文を審査対象として表彰するものである。

受賞論文は「Systemic administration of cytotoxic T lymphocyte-associated antigen 4 (CTLA-4)-Ig abrogates alveolar bone resorption in induced periodontitis through inhibition of osteoclast differentiation and activation: An

experimental investigation」であり、歯周病学分野で評価が高い国際誌Journal of Periodontal Researchに掲載されている。研究内容は、生物学的製剤である細胞傷害性Tリンパ球関連抗原4 (CTLA-4)-Igが、歯周炎の進行に及ぼす影響を検討したものである。

本研究では、CTLA-4-Igが破骨細胞の分化と活性化の阻害により歯槽骨吸収を抑制し、そのメカニズムとしてシグナル伝達経路が関与していることを示した点が評価され、受賞に至った。今回得られた知見が、歯周炎における歯槽骨吸収メカニズム解明の一助となり、歯周炎の発症・進行を抑制する新たなアプローチの端緒となることが期待される。



▲受賞した小谷地非常勤講師(右)と齋藤 淳教授



▲受賞した小谷地非常勤講師(右)と今村健太郎講師

## ■ 瀧川 穰准教授 第35回日本肝胆膵外科学会学術集会にて理事長賞受賞

2023年6月30日（金）、7月1日（土）に、京王プラザホテル（東京都）において開催された第35回日本肝胆膵外科学会学術集会にて、市川総合病院外科の瀧川 穰准教授が理事長賞を受賞した。本賞は、学会学術集会に応募された一般演題のうち、特に優れた3演題が選出されるものである。受賞演題は、「A prospective study investigating early diagnosis of pancreatic cancer by surveillance of patients with a local constriction of the pancreas "K-sign" by

computed tomography.」である。

本研究は、市川総合病院外科の松井淳一教授、瀧川准教授をはじめとする市川総合病院外科チームおよび放射線スタッフが発見した、膵臓がん発症前におこる膵くびれ様変化のCT所見を持つ患者30名を前向きに観察し、5名（17.6%）に早期膵臓がんを診断、根治的切除を行ったことを報告した。発症前画像より膵臓がんを診断・治療した前向き臨床研究であった点などが評価された。



▶受賞した左から瀧川准教授（中央）と松井教授（左）、日本肝胆膵外科学会理事長の遠藤 格先生（右）

## ■ 東京歯科大学「文部科学省次世代がんプロフェッショナル養成プラン」に東京医科歯科大学の連携校として参画

文部科学省は、第4期がん対策推進基本計画における人材育成の強化として、今後のがん医療を担う医療人の養成推進を目的とした「次世代がんプロフェッショナル養成プラン」を令和5年度より開始しているが、本学も東京医科歯科大学の連携校として本事業に参画することが決定した。歯科大学から本事業に参画するのは本学が唯一であり、東京医科歯科大学を主幹とするグループ（慶應義塾大学、国際医療福祉大学、順天堂大学、東海大学、東京薬科大学）の「次世代がん医療を担う多職種人材養成プラン」に所属する。

本学の役割は、がん医療の現場で口腔の健康推進に主導的な役割を果たすことのできる人材の育成であり、「口腔がん治療専門医養成コース」、「顎顔面補綴専門医養成コース」、「支持療法専門医養成コース/口腔ケア・摂食嚥下リハビリテーション・栄養療法分野」の3つの大学院博士課程を設置し、令和6年度より開講する。

さらにグループでの大学間連携として口腔ケア・口腔がん共通インテンシブコースを立ち上げ、他職種と協働して研修を行う場を提供する。

## ■ 間 奈津子講師 第41回日本骨代謝学会学術集会で優秀ポスター賞を受賞

2023年7月27日（木）から29日（土）に、都市センターホテル（東京都）において開催された第41回日本骨代謝学会学術集會にて、生化学講座の間 奈津子講師が令和5年度日本骨代謝学会学術集會優秀ポスター賞を受賞した。間講師は「NOTCH2遺伝子変異を伴うHajdu-Cheney症候群疾患特異的iPS細胞を用いた破骨細胞分化誘導」を発表し、その内容を評価されての受賞となった。

Hajdu-Cheney症候群は、進行性の骨破壊、骨粗鬆症や重度の歯周病を主な病態とする顕性遺伝性疾患でNOTCH2遺伝子の変異が原因とされる。遺伝子変異による過剰な破骨細胞分化・活性化が病態機序と考えられていることに着目し、本疾患における破骨細胞分化制御機構を検討した。Hajdu-Cheney症候群患者由来iPS細胞を樹立した後、マクロファージ・破骨細胞分化法を確立。Hajdu-Cheney症候群由来iPS細胞由来破骨細胞分化機能がNOTCH2シグナルの増強により、亢進する可能性を示した。今後は本疾患のみならず、近年社会的問題となっている高齢者の骨粗鬆症や重度の歯周病の病態解明にも寄与する研究成果が期待される。



▲受賞した間講師（左）と東 俊文教授

## 第6学年藤田沙世さん 日本補綴歯科学会第5回JPS student clinical skills competitionで最終選考最優秀賞1位を受賞

2023年6月4日（日）に、GCコーポレートセンター（東京都）において開催された公益社団法人日本補綴歯科学会主催第5回JPS student clinical skills competitionにて、第6学年の藤田沙世さんが最終選考最優秀賞1位を受賞した。本コンペティションは、的確な臨床判断能力と高いレベルの臨床技能を有する歯科医師を育成することを目的とした学生技能コンペティションである。

実技課題は、保険収載CAD/CAM冠（ハイブリッドレジンクラウン）を想定した模型上での支台歯形成であった。藤田

さんは、臨床実習中に希望者が参加して行われた学内選考において本学の代表となった。一次審査はプロダクトの提出による選考で、全国歯学部から25校の応募があった。その中で、最終選考となる二次審査に選抜された。

同日行われた二次審査では、上位6名のファイナリストがGCコーポレートセンターに集い、30分間で支台歯形成を行った。プロダクトはその場でスキャンされ、匿名化された状態で厳正に審査された。その結果、実力を発揮した藤田さんが見事最終選考最優秀賞1位を受賞した。



▶表彰式後の藤田さん



▲二次審査の実技試験(支台歯形成)中の様子



▲受賞した藤田さん(中央右)と指導にあたった竜 正大准教授、上田貴之教授、山下秀一郎補綴科部長、関根秀志教授、露木 悠助教(左から)

## 男子バレーボール部が関東医歯薬大会でリーグ優勝

2023年6月4日（日）と11日（日）に、千葉校舎体育館で開催された関東医歯薬大会において、本学男子バレーボール部がリーグ優勝という好成績を収めた。

主将の小野 快さん（第4学年）は、「この度、春の関東医歯薬大会にてリーグ内で優勝という成績を収めることができました。試合に出た選手達はもちろん、周りでサポートし

てくれたチームメイト含め、全員が一致団結して掴んだ勝利だと考えています。この結果に慢心せず適度な自信を持って、チームの目標であるデンタル優勝に向けてまた気持ちを切り替えて進んでいきますので、応援のほどよろしくお願致します」と報告ならびに決意を述べた。

## 第4学年の吉田颯樹さん、及川桃佳さん、木村光里さん、石塚洋一准教授が「2023年度ちよだ環境まつり」に出展

2023年6月17日（土）に、千代田区役所内区民ホール（東京都）において開催された「2023年度ちよだ環境まつり」に、第4学年の吉田颯樹さん、及川桃佳さん、木村光里さんが、衛生学講座の石塚洋一准教授指導のもと、「身近な環境を測ってみよう」と題してブースを出展した。

この出展は、温熱の4要素である気温・気湿・気流・輻射熱および空気中の二酸化炭素濃度を測定することで、身近な温熱環境に興味を持っていただき、近年問題となっている熱中症予防の啓発も行うとともに、地球温暖化についてのポスター展示により、環境問題についても関心を持っていただくことを目的に行われた。

当日は、樋口高顕千代田区長をはじめ、千代田区および近隣区民など多くの方が来場され、本学のブースに足を止め、学生の説明に熱心に耳を傾けていた。



▲樋口千代田区長(中央左)に説明する石塚准教授(右)と木村さん、及川さん(左から)

## 令和5年度父兄会定時総会開催

2023年6月17日（土）午後1時より、水道橋校舎新館血協記念ホールにおいて、令和5年度父兄会定時総会が開催された。一戸達也学長をはじめとする大学役職者ならび修学指導関係者の諸先生方をお迎えし、西山 潔父兄会長からのご挨拶の後、多田 宏氏を総議会議長に選出し、議案書に従い審議を進行した。約200名の保護者の方の参加があった。



▶父兄会総会の様子

## ■ 第55回全日本歯科学学生総合体育大会夏期部門結団式開催

2023年7月12日（水）午後6時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、第55回全日本歯科学学生総合体育大会夏期部門結団式が開催された。一戸達也学長の挨拶の後、男子バレーボール主将の小野 快さん（第4学年）による運

動部代表挨拶、硬式野球部の原田優佑さん（第4学年）による選手宣誓と続き、司会の石坂大昂さん（第4学年）による紹介のもと各クラブ主将が挨拶を行った。



▶ 結団式の様子



▲ 選手宣誓に臨む原田さん



▲ 各部の頼もしい主将たち

図書館では本学教員が執筆した著書(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限る)については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、ご一報ください。



土岐志麻, 新谷誠康・編著

子どもの口腔機能発達不全症 UPDATE: 口腔習癖・食べ方・食生活指導を含めたアプローチ

医歯薬出版, 2023

「口腔機能発達不全症」の改善のアプローチを行うためには、歯科医療職が子どもたちの口腔機能について問題点を指摘できる必要があります。本書は正常な口腔機能発達の説明から始まり、「どのような状態が口腔機能発達不全症なのか」について、診断に必要なチェックリストを一つずつ症例を呈示しながら解説し、必要となる機能訓練や支援内容、さらに保険の算定方法についても疑問点を解決できるように編集した著作です。(新谷誠康・小児歯科学)

## ■ 春の文献検索講習会開催

2023年4月25日(火)から5月18日(木)の期間中、オンラインにて文献検索講習会が開催された。1コマあたり60分程度の内容で、「PubMed」「Scopus」「医中誌Web」では、医学文献の検索に必須のデータベースの基本的な使い方から応用的・効率的な検索方法について演習を交えて解説した。「学認」では、図書館で提供している電子リソース(データベースや電子ジャーナル)を学外から利用す

る方法を説明した。

全日程で開催科目数7コマ、のべ74名の参加があり、アンケートでは「基本的な内容から便利な機能まで教えてもらった」「図や手順がわかりやすかった」「詳細な使用方法を聞くことができた」といった回答があり、大変好評を得た結果となった。

## 2022年度 Elective Study Program 実施

2023年3月、コロナ禍で2019年度以降中止をしていた Elective Study Programが3年ぶりに実施された。

第1～3学年の成績上位者35名の中の応募者から各4名、また2019年度\*に選出されていた第4学年、第5学年の各4名が選考委員会にかけられ選出された。

海外への渡航に先立ち、同窓会長の澁谷國男先生にお越しいただき、一戸達也学長とともに選出者一人ひとりに表彰状

を手渡され、激励のお言葉を頂戴した。

本年度の渡航先は、コロナ禍で実施できない期間に姉妹校協定を締結した2校を含む4校で、第1学年、第2学年が台北医学大学、第3学年がイエテボリ大学、第4学年がハイデルベルク大学、第5学年がタフツ大学を中心に行われた。

\*2019年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、実施直前に中止することが決定した。

### Elective Study Program 参加学生20名および引率教員

▶第1学年：矢嶋 優、下川美咲、曾根ゆき、光木理乃  
引率教員：山本将仁講師、廣内英智講師



▲第2学年：小倉幸樹、初野日菜乃、濱 利奈子、吉田祐晴  
引率教員：山本将仁講師、廣内英智講師



▲第3学年：浅原慶希、原田大聖、林 愛由菜、森本莉紗子  
引率教員：石塚洋一准教授



▲第4学年：武井すみれ、大谷 舞、石川智大、小俣有莉咲  
引率教員：田坂彰規准教授



▲第5学年：内田晃平、大塚啓史、小枝諒佑、横田 舞  
引率教員：黄地健仁助教

## 2022年度Elective Study Program報告①

# 台北医学大学を中心とした台湾でのElective Study Program

台湾でのElective Study Programは、第1学年4名、第2学年4名が参加した。

初日は張 維仁教授主催の夕食会を開催していただき、本学出身の林 士凱先生も同席され、よい時間を過ごすことができた。

2日目は、台北医学大学にて鄭 信忠口腔医学院院長らが出席した歓迎セレモニーが開かれた。学生たちの自己紹介後、お土産の交換を行った。続いて大学内を見学した。大学内の解剖実習室には、ご遺体の生前の写真が飾られており、生前にどのような人生を歩まれたのかを記載した説明文も掲示されていた。見学した2年生たちは本学との相違を体感したようだった。その後は附属病院を見学した。

3日目は、台北医学大学雙和病院へ向かい、主に総合診療科を見学した。雙和病院の障害者歯科診療室の創設には本

学も深く関わっており、その診療室を見学できたことは、学生たちにとっても有意義であったと思われる。

4日目は、張教授とともに台南へ向かった。台南での夕食会は、ホテル内のレストランで奇美病院の林 宏榮病院長らが手厚くもてなして下さった。

5日目は、奇美病院にて、本学に留学経験がある林 哲毅先生の出迎えを受け、手術室で口腔外科の手術を見学した。耳下腺腫瘍除去の手術を見学中、学生たちの間で解剖学と臨床の繋がりが話題になった。その後、総合診療科を見学した。

今回、台北医学大学を訪れた際に、長年培ってきた両校の信頼関係がますます強固なものとなっている印象を受けた。Elective Study Programでお世話になった先生方、事務の方々、関係各位に心から感謝、御礼申し上げます。

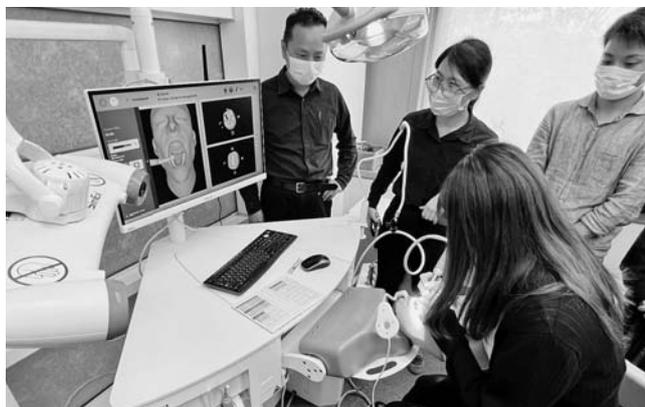
**【報告】**山本将仁、廣内英智



▲台北医学大学口腔医学院表敬訪問



▲高雄サイエンスパーク訪問



▲高雄サイエンスパークでシミュレーションに触れる参加者



▲奇美病院内歯科での集合写真

## 2022年度Elective Study Program報告②

# イエテボリ大学歯学部を中心としたスウェーデンでのElective Study Program

今回が初となるイエテボリ大学歯学部でのElective Study Programは、第3学年から4名が参加した。

1日目は、自己紹介、イエテボリ大学の紹介、Fika（フィーカ）、Department of Prosthodontics/ Dental Materials Scienceの紹介、最新のシミュレーター（simodont）の体験、Brånemark Clinicの見学、イエテボリ大学歯学部の学生たちとのディスカッションなどが実施された。

2日目は、Sahlgrenska Academyのスクラブに着替え、Student Clinic for ChildrenとStudent Clinic for Adultsを見学した。

3日目は、Peter Lingströmイエテボリ大学歯学部長・カリオロジー科主任教授によるSwedish Cariologyの講義、Fika、カリオロジー科のラボの見学とSweet Taste Perception Test

などが実施された。また、昼休みに講義室で実施された本学学生4名による東京歯科大学と日本についてのプレゼンテーションには、大勢のイエテボリ大学の学生たちが集まり、多くの質問もあって、両校の交流を深める大変有意義な機会となった。その後、本学学生4名にCertificateが手渡された。

今回の出張では、イエテボリに行く前に、スウェーデンの首都であるストックホルムを訪れ、スウェーデンの歴史に触れることもできた。Nobel Prize Museumでは、ノーベル賞の歴史や歴代受賞者について詳しく学ぶことができ、学生たちの研究に対する興味を引き出せたのではないだろうか。Elective Study Programをサポートくださった先生方ならびに関係者各位に心より感謝申し上げます。

**【報告】**石塚洋一



▲ Nobel Prize Museum での記念写真



▲イエテボリ大学歯学部 Student Clinic for Adults の見学に臨む第3学年の参加者



▲東京歯科大学と日本についてのプレゼンテーションを終えた参加者



▲ Peter Lingström 教授による Swedish Cariology の講義に臨む参加者

## 2022年度Elective Study Program報告③

### ハイデルベルグ大学附属病院を中心としたドイツでのElective Study Program

ドイツでのElective Study Programは、第4学年から4名参加した。

初日はケルンで開催されたInternational Dental Showに参加し、世界最新の歯科医療機器・材料に触れた。

ケルンからハイデルベルグに移動し、2日間ハイデルベルグ大学附属病院のプログラムに参加した。

補綴科では、学生が大学生活および日本文化についてプレゼンテーションをした。補綴科の診療室、歯科技工室、講義室、基礎実習室および研究室の説明を受けた。口腔内スキャナーとCAD/CAMを用いた基礎実習を行っていることに学生は驚いていた。

矯正科では、臨床見学をし、研究室について説明を受けた。

保存科では、学生は臨床実習に参加し、学生同士で臨床実習や学生生活についてディスカッションをし、学生交流を行った。ドイツの臨床実習は学生自ら治療を行うため、学生はその実習生の姿を見ることで、5年生から開始される臨床実習に対してモチベーションを高めていた。

口腔外科では、舌がんの摘出手術とデジタルプランニングによる下顎骨部分切除後の腓骨移植の手術の見学をした。

今回のハイデルベルグ大学附属病院でのElective Studyは初めての試みであったが、学生にとっては刺激的であり、充実した内容で有意義な時間を過ごすことができた。最後に今回のプログラムの実現に携わってくださった本学およびハイデルベルグ大学の先生および事務の皆様へ、感謝の意を表したい。

**【報告】**田坂彰規



▲補綴科の先生方との記念写真



▲診療について説明を受ける参加者



▲証書を受け取った第4学年の参加者



▲口腔外科での手術見学時の様子

## 2022年度Elective Study Program報告④

# タフツ大学を中心とした米国東海岸でのElective Study Program

米国東海岸でのElective Study Programは、第5学年から4名参加した。

到着翌日と翌々日は、タフツ大学附属病院のプログラムに参加し、各外来の見学や歯周病科の講義を受けた。歯内療法科では、学生が実際に診療介助をし、貴重な経験となった。歯科技工室では普段直接触れることのできないデジタル技術に学生は驚いていた。またタフツ大学の学生やレジデントとの交流では、本学学生が大学生活や日本の文化について発表した。

3日目の午前はハーバード大学の歯学校と医学校の見学を行った。現場で活躍されている先生方や研究者との交流を深めた。3日目の午後はボストン大学へ移動し、本学卒業生の山本英夫先生や多くの先生方から米国の歯科医療システ

ムやその背景を学ぶ機会があった。学生による診療や、ライセンス取得後のより高度で専門的な診療が大学内で差別化されていることに学生は驚いていた。

4日目と5日目は再びハーバード大学の研究者の方々と交流を深めた。また、マサチューセッツ工科大学やマサチューセッツ総合病院も訪問し、学生は大きな刺激を受けていた。

今回、短期間に米国ボストンにある3つの大学を訪問するというタイトなスケジュールであったが、事前にしっかり計画を立てたこともあり、充実した時間を過ごすことができた。今回のプログラムの実現に携わってくださった皆様に感謝の意を表したい。

【報告】黄地健仁



▲タフツ大学歯学部長表敬訪問時の記念撮影に臨む第5学年の参加者と引率教員



▲タフツ大学での臨床見学に臨む参加者



▲ボストン大学歯学部長表敬訪問に臨む参加者と山本先生



▲ハーバード大学歯学部長表敬訪問に臨む参加者

## ラヴァル大学（カナダ）のPetros Papagerakis歯学部部長が 本学を表敬訪問

2023年6月22日（木）に、ラヴァル大学（カナダ）歯学部部長の Petros Papagerakis 先生が本学を表敬訪問され、一戸達也学長、生理学講座の澁川義幸教授、黄地健仁助教と懇談された。

今回の訪問で、ラヴァル大学歯学部と本学との間で将来的な共同研究、教員および学生の人的交流など、今後の積極的な交流について有意義な意見交換が行われた。

▶（左から）一戸学長、Dr. and Dr. Papagerakis、澁川教授、黄地助教



## イエテボリ大学歯学部学生 Elective Study 実施

2023年7月10日（月）～14日（金）、本学学術交流校であるイエテボリ大学歯学部（スウェーデン）より、Jeniffer ToさんとIde Ilesoさんの2名が来訪した。これは、学生の相互交流を明記した学術協定内容に則り今年度初めて実施され、水道橋校舎新館での実習授業見学や水道橋病院見学、市川総合病院での手術見学などを行った。

また、15日（土）には、本学 Elective Study Program で2023年3月にイエテボリ大学を訪問した第4学年の学生とともに、浅草とお台場を観光し交流を深めた。

▶学長表敬後の様子



## ハイデルベルク大学歯学部との姉妹校協定締結記念セレモニーに 一戸達也学長が出席

2023年7月20日（木）午前10時より、ハイデルベルク大学（ドイツ）において、2023年3月1日付けで締結したハイデルベルク大学歯学部と本学との姉妹校協定を記念するセレモニーが開催された。セレモニーには、ハイデルベルク大学より Marc-Philippe Weller 副学長、Peter Rammelsberg 教授、Christopher J. Lux 教授、Au 国際交流部部長が出席し、本学より一戸達也学長、パーシャルデンチャー補綴学講座の小林 裕助教が出席した。

セレモニーは、1728年に完成したハイデルベルク大学旧大学南棟にある貴賓室のベル・エターージュで開催された。厳粛な部屋の雰囲気とは異なり、和やかな雰囲気の中で活発な意見交換がなされた。本協定に基づく学生派遣は昨年度より実施しており、今後は研究者間による共同研究などを実施していくことで合意した。



▲（左から）Weller 副学長、一戸学長、Rammelsberg 教授、Lux 教授、Au 氏、小林助教

## 2023 年度東京歯科大学短期大学 第1回および第2回オープンキャンパス・入試説明会開催

2024年度東京歯科大学短期大学への入学希望者を対象としたオープンキャンパス・入試説明会が、2023年6月18日（日）に第1回、7月22日（土）に第2回として水道橋校舎本館A教室において開催された。第1回目は学生と保護者を合わせて142名、第2回は121名の参加者であった。

当日は、鳥山佳則短期大学学長の挨拶から始まり、短期大学の概要、学生生活、学生募集要項、入学試験などについての説明が、第1回は片田英憲短期大学学生部長、第2回は菅野亜紀短期大学教務部長および小林友忠事務部長より行われた。その後、模擬授業の聴講をした後に、例題を解答するという総合型選抜試験対策の体験が行われた。参加者は緊張した面持ちで、慣れない教室にもかかわらず一生懸命聴講

し、例題に取り組んでいた。

休憩をはさみ、水道橋病院診療室、水道橋校舎西棟短期大学実習室、水道橋校舎本館短期大学教室、実験室のルートで施設見学を行った。途中の診療室や実習室、実験室には、短期大学教員および専攻科生を配置し、適宜説明が行われた。短期大学教室では、窓越しの眺めの良さに見入っている様子うかがえた。

両日とも施設見学終了後に、水道橋校舎本館ラウンジにおいて、希望者に対して個別相談が行われた。相談内容は、入学試験、学生生活、専攻科への進学、学費・奨学金、授業内容、就職先などの多岐にわたり、教職員および専攻科生が対応にあたった。



▲模擬授業を聴講する参加者



▲個別相談を行う短期大学教員

## 国内見学者来校

### 水道橋校舎・水道橋病院

#### ■医療法人至誠会 たんぽぽ歯科医院

対象日：2023年5月10日(水)

見学施設：標本室

見学者：7名

#### ■筑波大学附属聴覚特別支援学校

対象日：2023年6月14日(水)14:00～16:00

見学施設：水道橋病院各科(歯科技工室含む)および、  
解剖標本室

見学者：2名(引率教員3名)

#### ■太陽歯科衛生士専門学校

対象日：①2023年7月24日(月)14:00～16:00

②2023年8月22日(火)14:00～16:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：①学生84名(引率教員3名)

②学生79名(引率教員4名)

#### ■埼玉県立常盤高等学校

対象日：2023年7月26日(水)10:00～12:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：学生74名(引率教員4名)

#### ■学校法人村上学園 専門学校日本医科学大学校

対象日：2023年7月27日(木)10:00～12:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：学生90名(引率教員6名)

#### ■大宮歯科衛生士専門学校

対象日：2023年7月27日(木)14:00～16:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：学生31名(引率教員2名)

#### ■国際医療福祉専門学校

対象日：2023年7月28日(金)10:00～12:00 及び

13:30～16:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：学生82名(引率教員8名)

#### ■茨城歯科専門学校

対象日：2023年8月2日(水)10:00～12:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：学生50名(引率教員5名)

#### ■関東鍼灸専門学校

対象日：2023年8月2日(水)14:00～

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：学生64名(引率教員3名他)

#### ■国立大学法人東京医科歯科大学

対象日：2023年8月9日(水)

見学施設：本館7階口腔科学研究センター

見学者：教員6名

#### ■埼玉県立大学

対象日：2023年8月22日(火)9:30～16:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：学生30名(引率教員1名)

#### ■さいたま柔整専門学校

対象日：2023年8月23日(水)10:00～12:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：学生57名(引率教員8名)

### 市川総合病院

#### ■千葉大学医学部附属病院

対象日：6月29日(木)9:00～17:00

見学施設：角膜移植手術の見学、動画の閲覧

見学者：1名

#### ■東京都済生会中央病院

対象日：2023年8月15日(火)午後～

見学施設：第二部手術室、眼科外来、角膜センター

見学者：1名

### 千葉歯科医療センター

#### ■医療法人至誠会 たんぽぽ歯科

対象日：2023年6月30日(金)

見学施設：千葉歯科医療センター

見学者：8名

#### ■医療法人社団湧泉会 ひまわり歯科

対象日：2023年7月27日(木)

見学施設：千葉歯科医療センター

見学者：8名

## 海外出張

### ■橋本正次嘱託教員(大学)

4th Indonesia International symposium of Forensic Odontology への出席のため、5月2日(火)から5月8日(月)までインドネシア・ハサヌディンへ出張。

### ■ピッセン弘子特任教授(水病・眼科)

BVI 社研究会議出席、カールツァイス社フォーラム出席、ASCRS 学会参加のため、5月2日(火)から5月10日(水)までアメリカ合衆国・サンディエゴへ出張。

### ■大野建州講師(口腔科研究センター), 千代侑香大学院生(歯科麻酔学)

IMMUNOLOGY2023 への参加・発表のため、5月11日(木)から5月15日(月)までアメリカ合衆国・ワシントンへ出張。

### ■ピッセン弘子特任教授(水病・眼科)

The 35th APACRS 学会 Annual meeting への参加のため、6月8日(木)から6月11日(日)までシンガポール・ラッフルズブルーバードへ出張。

### ■森川貴迪講師(口腔顎顔面外科学)

25th International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery への参加・発表のため、6月9日(金)から6月12日(月)までカナダ・バンクーバーへ出張。

### ■倉島竜哉大学院生(生理学)

European Pain School への参加のため、6月9日(金)から6月18日(日)までイタリア・シエナへ出張。

### ■菅原圭亮准教授(口腔病態外科学)

2nd Joint Japanese-German CMF Convention (12th-13th June 2023) 73rd Congress & Practice Management Seminar of the DGMKG + German Dentist's Day 2023 (14th-17th June 2023) への参加・発表のため、6月11日(日)から6月16日(金)までドイツ・ハンブルクへ出張。

### ■西山明宏講師(口腔病態外科学)

2nd Joint Japanese-German CMF Convention (12th-13th June 2023) 73rd Congress & Practice Management Seminar of the DGMKG + German Dentist's Day 2023 (14th-17th June 2023) への参加・発表および、研究打ち合わせ、研究施設訪問のため、6月11日(日)から6月23日(金)までドイツ・ハンブルクへ出張。

### ■太田友香講師(水病・眼科)

World Glaucoma Congress2023 への発表のため、6月26日(月)から7月2日(日)までイタリア・ローマへ出張。

### ■石塚洋一准教授(衛生学)

The 70th European Organisation for Caries Research (ORCA) Congress への参加・発表のため、7月2日(日)から7月10日(月)までオランダ・エグモント・アーン・ゼーへ出張。

### ■多賀谷光男客員教授(口腔科研究センター)

Gordon Research Conference Molecular Membrane Biology への参加・発表および、イェールグローバルヘルス研究所での情報収集のため、7月14日(金)から7月26日(水)までアメリカ合衆国・ボストン他へ出張。

### ■一戸達也学長(大学), 小林 裕助教(パーシャルデンチャー補綴学)

ハイデルベルク大学との姉妹校協定調印式参加およびドイツ交流校への訪問のため、7月17日(月)から7月22日(土)までドイツ・ハイデルベルク他へ出張。

### ■山本将仁講師(解剖学)

全北大学解剖学講座との共同研究のため、8月27日(日)から8月29日(火)まで韓国・全州へ出張。

### ■竜 正大准教授、山本吉紀大学院生、小林嵩史大学院生、堀 綾夏大学院生(老年歯科補綴学)

International College of Prosthodontists (ICP) 2023 Meeting への参加・発表のため、8月29日(火)から9月4日(月)までイギリス・ロンドンへ出張。

### ■太田 緑講師(老年歯科補綴学)

International College of Prosthodontists (ICP) 2023 Meeting への参加・発表及び、ジュネーブ大学との共同研究打ち合わせのため、8月29日(火)から9月7日(木)までイギリス・ロンドン、スイス・ジュネーブへ出張。



2023年6月

		大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	木	6年生第1回総合学力試験〔～6/2〕 〔防火・防災安全自主点検日〕	感染制御委員会 プログラム委員会	診療録整備部会
2	金	短大水道橋病院臨床実習小委員会	給食運営会議 こどもサポートチーム運営会議	
3	土	第315回東京歯科大学学会・例会		
4	日			
5	月		市川リレーションシップカンファレンス	千葉歯科医療センター医療連携部会
6	火	水病感染予防対策チーム委員会	緩和ケア委員会 虐待・DV対応委員会	リスクマネージャー部会 ICT部会
7	水	水病薬事委員会	臨床検査運営委員会	
8	木	短大水道橋病院臨床実習指導者委員会	患者サービス向上委員会 手術室運営委員会	
9	金	短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会		
10	土			
11	日			
12	月			千葉校舎衛生委員会 研修管理小部会
13	火	口科研センター会議、臨床教授連絡会 講座主任教授会、人事委員会 水病給食委員会	緩和ケア委員会	千葉歯科医療センター医局長会
14	水	大学院運営委員会、大学院研究科委員会 第3回図書館事務連絡会、水病リスクマネージメント部会	救急委員会 ICU運営委員会	
15	木	水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会 〔環境清掃日〕〔危険物・危険薬品廃棄処理日〕	前期健康診断〔～6/17〕 部長会、衛生委員会 説明と同意の質向上委員会	
16	金	実験動物供養祭	NSTカンファレンス	
17	土			
18	日	短大オープンキャンパス・入試説明会		
19	月	教職員健康診断(男性)、教職員健康診断(女性) 短大教授会	前期健康診断〔～6/21〕 医療安全管理委員会	千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護部会 医療安全管理部会 感染予防対策部会 薬事部会
20	火	教職員健康診断(女性)、水病褥瘡対策委員会 〔機器等安全自主点検日〕	緩和ケア委員会	
21	水	教職員健康診断(男性)	羊膜バンク運営委員会 診療材料検討委員会 特定共同指導対策プロジェクト会議	千葉歯科医療センター業務連絡会
22	木	教職員健康診断(女性)、TDCビル協議会	管理診療委員会	
23	金	教職員健康診断(男性) 第164回倫理審査委員会・第105回利益相反委員会	災害対策委員会	
24	土			
25	日			
26	月		がんセンターボード	
27	火	衛生委員会、水病教職員研修会	クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 急変ワーキンググループ・RRT合同事例検証会	
28	水	水病業務連絡会、第3回国際交流部運営委員会 水病データ管理者会議・診療録管理委員会	診療記録委員会・情報システム委員会	
29	木	水病研修歯科医募集病院説明会(学内)		
30	金		電子カルテ停止時の運用説明会	

2023年7月

		大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	土	水病研修歯科医募集病院説明会(学外) [防火・防災安全自主点検日]		
2	日			
3	月		薬事委員会	医療連携部会
4	火	水病感染予防対策チーム委員会	緩和ケア委員会 医療安全・感染予防対策講演会	リスクマネージャー部会 ICT部会
5	水	水病薬事委員会	第1回図書委員会 キャンサーボードセミナー 臨床検査運営委員会	
6	木		感染制御委員会 プログラム委員会	診療録整備部会
7	金	短大水道橋病院臨床実習小委員会		
8	土			
9	日			
10	月			千葉校舎衛生委員会 研修管理小部会、医局長会
11	火	口科研センター会議、臨床教授連絡会 講座主任教授会、人事委員会	緩和ケア委員会	
12	水	基礎教授連絡会、大学院運営委員会 大学院研究科委員会、水病リスクマネジメント部会	救急委員会 治験審査委員会・倫理審査委員会 ICU運営委員会、CPC	
13	木	短大水道橋病院臨床実習指導者委員会	患者サービス向上委員会 脳卒中センター運営会議 地域連携委員会	
14	金	第4回図書館事務連絡会 短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会	こどもサポートチーム運営会議 がん薬物療法小委員会	
15	土	[環境清掃日] [危険物・危険薬品廃棄処理日]		
16	日			
17	月	海の日		
18	火	短大教授会	緩和ケア委員会	
19	水		褥瘡対策委員会 診療材料検討委員会 保険診療委員会 輸血療法委員会 DPC症例検討委員会 特定共同指導対策プロジェクト会議	
20	木	TDCビル協議会、第2回図書委員会 水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会 水病第1回地域医療連携委員会 [機器等安全自主点検日]	説明と同意の質向上委員会(メール開催) 部長会、手術室運営委員会 衛生委員会 内視鏡室委員会	
21	金	第165回倫理審査委員会・第106回利益相反委員会	NSTカンファレンス 栄養管理委員会	
22	土	1~4年生夏期休暇開始(~9/3) 短大オープンキャンパス・入試説明会		
23	日			
24	月		医療安全管理委員会 キャンサーボード	千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護部会 医療安全管理部会 感染予防対策部会
25	火	衛生委員会、水病教職員研修会	院内迅速対応システム検討委員会 クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 外来運営委員会 急変ワーキンググループ・RRT合同事例検証会	

26	水	水病業務連絡会、第4回国際交流部運営委員会 水病データ管理者会議・診療録管理委員会	診療記録委員会・情報システム委員会 高難度新規医療技術等評価室運営会議 医療機器安全管理委員会	
27	木		管理診療委員会 バスキュラーボードカンファレンス	業務連絡会
28	金		リスクマネージャー会議 給食運営会議 業務改善委員会	
29	土	Tokyo Dental College Research Project Asian Rising Star Symposium 2023	緩和ケア研修会	
30	日			
31	月			

2023年8月

		大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	火	[防火・防災安全自主点検日]	緩和ケア委員会	
2	水		臨床検査運営委員会(メール開催)	
3	木		感染制御委員会	
4	金	短大水道橋病院臨床実習小委員会	こどもサポートチーム運営会議 業務改善委員会	
5	土			
6	日			
7	月			
8	火	水病給食委員会	緩和ケア委員会	
9	水	水病リスクマネジメント部会		
10	木		患者サービス向上委員会	
11	金	山の日		
12	土			
13	日			
14	月			
15	火	水病褥瘡対策委員会 [環境清掃日] [危険物・危険薬品廃棄処理日]	緩和ケア委員会	
16	水			
17	木			
18	金		NST カンファレンス	
19	土	短大オープンキャンパス・入試説明会		
20	日			
21	月	[機器等安全自主点検日]	医療安全管理委員会	
22	火		緩和ケア委員会	
23	水		特定共同指導対策プロジェクト会議	
24	木	TDC ビル協議会		
25	金			
26	土			
27	日	水病研修歯科医選考試験		
28	月			
29	火	6年生第2回総合学力試験(～8/30)	緩和ケア委員会	
30	水			
31	木			



リレー連載

# あのころ私も若かった！

私は1979年に本学に入学し1985年に卒業、その後当時の口腔外科学第一講座の大学院を経て今日に至っています。

1980年代の日本はバブル景気と呼ばれる好景気に突入した時代です。一攫千金で儲けた人々の間で不動産ブームが起きたり、学生まで華やかなファッションが流行ったりと、生活に大きな変化が起きました。学生も冬はスキー、夏はテニスにウインドサーフィン、その移動は自家用車、週末の夜はEarth, Wind & FireのBoogie Wonderlandが鳴り響くディスコ、田中康夫の『なんとなくクリスタル』そのままに大学生が派手に遊び始めた時代です。

私は子供の頃からスケートをしていたので、入学式当日にアイスホッケー部（現アイススケート部）に入部しました。東京都大学リーグ4部で試合をしていました。4部といっても国士館大・日体大などと同じクラスでしたので、週2回、深夜・未明のスケート場で毎回きつい練習を強いられていました。深夜に練習して未明に帰宅、3時間程度の睡眠で講義



今号の「私」は  
**片倉 朗** 副学長

東京都新宿区出身

昭和60年卒（第90期）

アイスホッケー部/臨床実習A班副班長

に実習——そんなわけで学生時代はゲッソリしています。

第4学年の夏休みには友人とアメリカ旅行に行き、観光で訪れたUCLAのゲート前で写真を撮りました。20年後に予期もしなかったUCLAに留学することになり、同じ場所で写真を撮っていました。

1985年、口腔外科には同期9名で入局しました。医局旅行の新人芸では、新人が一人前の口腔外科医になる『みにくいアヒルの子』の寸劇をし、フィナーレで当時流行っていたおニャン子クラブの『セーラー服を脱がさないで』を踊って大いに盛り上がりました。

1989年1月8日、千葉病院で当直明けの朝に64年間続いた昭和が終わり、元号が平成に改められました。国内はバブル絶頂期、海外では東西冷戦の終結など激動の年でした。

## バブリー！「片倉っち」が Dr. Katakura になるまで



衣装作りは同期9名で色染めから手作り。もちろん寸劇も全力で。



広報・公開講座部長：橋本 貞充

編集委員：阿部 潤也

井上 直記

上田 貴之

岡田 舞

河合 宏明

世木田 晋

染屋 智子

高橋 恭子

瀧口 葵

田島 大地

多田 美穂子

橋本 尚呂子

松浦 由美子

宮川 裕暉

渡辺 賢

## 編集後記

第55回全日本歯科学生総合体育大会。オールデンタル、4年ぶりの夏開催。クラブ活動の時計が止まった2020年の春。ひとと人が同じ場所と時間を共有し、一緒に笑ったり泣いたりする、そんな当たり前の日常の大切さに気づかされる日々。心の中に深く刻まれた3年もの空白期間の痛み。クラブ活動の再開後も多くの制約の中で、一度途切れたクラブの伝統を復活させるのは簡単なことではなかった。デンタル経験者がいない中でのスタート。大きな不安の中、ひとりじゃできないことばかりだったけれど、大会に出ることなく引退していった先輩たちの悔しい思いを胸に練習を積み重ねた日々。たくさんの喜びと涙。試合を目指してカラフルに弾け、One teamとなってみんな

で掴んだ勝利の記憶はきっと色褪せない。どう生きるのか。一つのことをやり遂げる情熱と諦めない心は、多用性が求められる世界の中で、きっと自分自身を強くする。文武両道。たとえ試行錯誤の毎日が失敗ばかりで今を逃げ出したいと思う日があったとしても、仲間の励ましと小さなうれしい出来事たちに背中を押され、顔を上げて毎日を歩いていく。卒業までの限られた時間の中で、自分と真っ直ぐに向き合っていく覚悟をもつて。



第55回歯学体結団式。男子バレーボール部主将・小野 快さん(第4学年)の運動部代表挨拶